



医師の診断を「聞く力」でサポート 頭痛をメモする大切さを伝えた薬剤師

北区にあるゆう薬局の管理薬剤師Oさんは薬剤師歴15年のベテラン。中学時代に長く入院した経験から、患者さんの不安や悩みに人一倍耳を傾けています。そうすることで、さまざまな患者の早とちりに気付いてあげられることもあります。

ある日、70代の患者の峰さん（仮）が、しかも面でもやって来ました。聞くと「先日の薬を飲んでも頭痛が治らん。医者が悪いかも。別の病院行くわ」。しかしOさんは峰さんに、詳しい症状をメモに取って再受診することを提案しました。実は、その医師が「頭痛の名医」であると、別のゆう薬局の薬剤師に聞いて知っていたからです。

頭痛は種類によって原因や治療が違い、診断が難しい。問診がとても重要な病気のひとつです。頻度や痛む時間帯、鈍い痛さなのか、ズキズキなのか、吐き気があるのか……。しかし、患者本人が的確に症状を説明するのは難しいもの。Oさんは、峰さんが医師にうまく詳細を伝えられていないかもしれないと予測しました。そこで、頭痛の診断は難しい

ので、問診が重要であること。だから、メモを用意して詳細を医師に伝えた方がいいことを峰さんに説明しました。

その話に納得した峰さんは、メモを持参して病院へ。メモのおかげで、的確な診断が下されました。その結果、峰さんは「頭痛が軽くなってきたよ。ありがとな!!」と晴れやかな顔で報告に来てくれたのです。「峰さんが笑顔になって私もうれしかったです」と振り返るOさん。普段からコミュニケーションをとる患者さんについてだけでなく、医師による頭痛の治療手順も熟知しているOさんならではの解決策でした。

「治らないからと自己診断で病院を変える前に、一度相談に来てほしいです」。

京都で96店舗をもつゆう薬局はグループ全体で医療情報を共有し、横同士のつながりが強いのも特長です。情報収集力と患者さんへのヒアリング、そして医師が診断しやすくなるための情報収集のサポート。ゆう薬局の薬剤師はこうした縦横無尽の行動力で、地域医療を支えているのです。



豆知識

頭痛と薬について

頭痛薬は身近な薬の一つですが、乱用により却って症状を悪化させることも。頭痛の頻度が増えた場合は薬局でもご相談を。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♂️よりバス停は「錦林車庫前」